

東久留米市立図書館協議会による令和5年度図書館事業評価について

図書館協議会では、前年度に実施した図書館事業のうち、事務局が提案するテーマについて事業評価を行っています。昨年度は、「第三次 東久留米市子ども読書活動推進計画」に基づき取り組んできた「子ども読書活動推進事業」（令和4年度実施分）について事業評価を行いました。

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、市立図書館4館を運営する指定管理者によって多くの事業が企画・実施され、利用者満足度調査においても市民から一定の評価をいただきました。それらの事業が図書館事業としてふさわしく、利用者のニーズを捉え、図書館サービスが適切に行われたかを検証し、来年度に控える次期指定管理者の選定にも生かしていく必要があります。

そのため、今年度の事業評価では、令和5年度に実施した図書館の主要事業について、図書館協議会の意見をまとめました。

【図書館フェス2023】

- ・「本がつなぐ人と街」というテーマだけではフェスをイメージしにくい。年ごとに興味が惹かれるようなテーマがあるとよい。
- ・協力する側にメリットとして実感してもらうための具体的な方策があるとよい。

【第1回東久留米市図書館を使った調べる学習コンクール】

- ・自分で調べることによって、誰かから聞く受け身の学習ではない深い学びにつながる。今後も続けてもらいたい。
- ・どうやって調べて、それをどのように読み解いて、どの資料が今の目的に合っているか、そういうプロセスから学べるようなもう1段階があるとよい。

【ぼけ☆1GP（グランプリ）】

- ・中学・高校生が運営に関与することで、同世代の小・中学生にも図書館に興味を持ってもらい、将来的な利用者になってもらえる可能性を秘めている。継続して取り組んでいくことが大事だと考える。

【ストーリー・フェスタ2023】

- ・サブタイトルが「多言語によるおはなし会」になっていることから、例えば同じ本をいろいろな言語で読み聞かせをしてみても面白いのではないかな。

【その他】

- ・多摩六都科学館や郷土資料室にもいろいろな資料がある。地元を歩いて体感しながら調べたことは記憶に残りやすい。
- ・国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業において成果を上げたことなど、日常業務についても折に触れてアピールしてもいいのではないかな。

- ・図書館の団体貸し出しサービスを利用することで、クラスの一人ひとりが文献を手
に取ることができてありがたい。
- ・図書館にある地域に関する資料が、学校でも分かるような仕組みがあるとよい。
- ・図書館が開催する企画にもっと多くの参加者があってもいいと思う。来てもらいた
い人に対して、企画があることをどうやって伝えたらいいのか、もっと考えながら
周知するとよい。

令和5年度 東久留米市立図書館主要事業の実績及び自己評価

	事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
中央	図書館フェス 2023 ～本がつなぐ人と街～	「人と人」「人と街」をつなぐ地域のハブとしての図書館の役割をPRする機会として、「本がつなぐ人と街」をテーマに開催。事業を通じて、これまで図書館に関心がなかった人にも目を向けてもらい、参加した人が図書館や本を通して広い世界に触れられるようにすることを目的とした。	開催期間 令和5年11月18日(土)～11月30日(木) ①ひとハコ図書館 参加者：15団体(個人参加含む) リーフレット配布枚数：474枚 ②本屋さんのトビラ 参加店舗：6店舗 ③磯井純充氏講演会「本でつながる人とまち」 開催日：11月19日(日) 講師：磯井純充氏 参加者：25名 ④図書館のウラ側探検(書庫ツアー) 開催日：11月18日(土)・23日(祝) 参加者：10名 ⑤ブックキャンプ 開催日：11月25日(土)・26日(日) 参加者：30名 ⑥図書館ガチャ 開催日：11月18日、19日、23日、25日、26日 参加者：146名	いずれの事業も、図書館の目的を反映した内容であり、多くの参加者も得られ、その評価も好評であった。図書館の役割を市民に浸透させるためには、今後も広報や事業等を通じてアプローチし、利用者の増加や利用方法の普及に努めていく必要がある。 WEBを活用した事業として、図書館ホームページや展示物に、各書店のホームページやSNSへのリンクを貼って紹介したが、図書館の利用者がどの程度それらを経由してアクセスしたかの測定が難しい。事業に参加したメリットを書店に実感してもらうための材料が少ないことが課題である。
	第1回東久留米市図書館を使った調べる学習コンクール	令和4年度まで、市内小中学校の児童・生徒が市立図書館や学校図書館の本を使った調べ学習の成果を発表(展示)する「調べ学習発表会」を開催していたが、令和5年度からは図書館の利用促進と調べる学習の普及を目的とした「図書館を使った調べる学習コンクール」を実施。 ※「図書館を使った調べる学習コンクール」とは、公益財団法人図書館振興財団が主催する“子どもたちが自ら興味を持って取り組み、調べたことを作品にして発表する”コンクールであり、市が実施する地域コンクールで上位の作品を全国コンクールに推薦する。	募集期間 令和5年9月1日(金)～9月30日(土) 応募作品数 小学生の部 28点 中学生の部 136点 計164点 地域コンクール入選作品 小学生の部 6点 中学生の部 4点 (内訳) ・市長賞 小学生の部1作品・中学生の部該当なし ・審査員長賞 小学生の部1作品・中学生の部該当なし ・優秀賞 小学生の部1作品・中学生の部1作品 ・優良賞 小学生の部3作品・中学生の部3作品 全国コンクール推薦作品数 小学生の部 3点 中学生の部 0点	今年度の入賞作品を見ると、自身の知りたい事柄を「どう調べるか」考え、さまざまなメディアから複数の文献を参考にし、作品によっては現地に足を運んで調査を行い、最終的に自分の考えを作品の中で表現しているという点が高く評価できる。その一方で、応募作品の傾向として、インターネットの情報のみで調べられている作品が多数見られた点、また、身近な疑問から調べるという着眼点はあっても、身近な情報から結論付けられている作品もあった点が今後の課題として挙げられる。 また地域コンクール開催初年度ということもあり、地域の学校との連携については十分行うことができなかった。 次年度の目標として、地域の学校司書の協力のもと学校図書館とも連携し、子どもたちが楽しみながら調べ学習に取り組める事業を推進していきたいと考えている。

	事業名	事業概要	実績	自己評価・課題
中央	ぼけ☆1GP（グランプリ） ～ぼけ☆ま流ビブリオバトル～	ティーンズによるティーンズのための冊子「ぼけ☆ま」の編集部員の手で企画され、延期が続いていたビブリオバトルを、今年度はじめて実施した。 主にティーンズ世代への読書活動の推進を図ることを目的として開催。	開催日：令和5年8月20日（日） 参加者：小中学生5名 観覧者：12名	現役の中高生が自発的に企画し、運営側として事業に参加したことは、大きな意義があった。読書活動の促進・誘導を本事業の主たる目的とすれば、受賞者同士やその場にいた観客とのコミュニケーションが生まれたことは大きな副産物であったと言える。 今後も、10代の子どもたちが運営に参加できる仕組みを工夫し、中高生世代にマッチした事業展開を行っていきたい。
	ストーリー・フェスタ 2023 ～多言語によるおはなし会～	ネイティブスピーカーによる多言語でのおはなし会を行うことで、日本語を母語としない子どもたちのほか、すべての子どもたちにとって言葉や文化の違いに触れる機会とし、外国語への関心を高め、多言語資料の利用につなげる。	開催日：令和5年10月25日（水） 参加者：62名	英語・韓国語・ネパール語の三か国語での歌や手遊び、読み聞かせを行う中で、外国語を母語とする子どもたちと日本語を母語とする子どもたちとの交流もあり、事業目的は一定の成果をあげることができたと考える。その一方で今年度はじめてポスターの掲出をお願いした「クリスチャン・アカデミー」の生徒の参加は1名に留まり、次年度以降の継続的な広報を積極的に行う必要を感じた。
滝山	<郷土資料室との連携事業> ・郷土資料室「夏の昆虫展」 ・図書館「昆虫標本と関連図書展示」 <図書館イベント> ・滝山昆虫図鑑	滝山図書館は近隣にある市郷土資料室と連携し事業を実施した。 郷土資料室主催「夏の昆虫展」の展示室に図書館の関連図書を展示し、図書館のPRを行った。 また、郷土資料室から昆虫標本を借用し、図書館で「昆虫」の関連図書と一緒に展示を行った。 その他、夏の子ども向けイベントとして、野外で昆虫をつかまえて図書館の本で名前や特徴を調べる「滝山昆虫図鑑」も開催した。	■郷土資料室「夏の昆虫展」 開催期間：令和5年7月21日（金）～8月31日（木） ■滝山図書館 ・昆虫標本と関連図書展示 展示期間：令和5年7月8日（土）～8月31日（木） ・イベント「滝山昆虫図鑑」 開催日：令和5年7月30日（日） 参加者：16名（子ども8名、保護者8名）	郷土資料室での関連図書の展示により、図書館の本に関心を持ってもらうことができた。 滝山図書館では、昆虫の標本箱を展示することで利用者の目を引き、例年実施しているイベント「滝山昆虫図鑑」の宣伝となった。郷土資料室の「夏の昆虫展」に対する問い合わせも多く、郷土資料室の展示の参加促進にもつながった。
ひばりが丘	<ボランティアとの連携事業> よもう！あそぼう！かがくの本	昨年度までボランティアグループ協力のもと中央図書館・東部図書館のみで行っていた科学の本の読み聞かせと体験のイベントを、今年度より全館で実施。科学を切り口にしたテーマに沿って、実験・観察などを行うとともに、読み聞かせとブックトークを行うことで、関連図書に興味を持ってもらい、図書館の本の貸出や利用につなげる。	・よもう！あそぼう！かがくの本 「ためしてみよう！くつつくちから」 開催日：令和5年5月28日（日） 参加者：15名 ・よもう！あそぼう！かがくの本 「水の中のたまご」 開催日：令和6年1月21日（日） 参加者：11名	参加した児童が実験や観察に意欲的に取り組み、講師や図書館スタッフへの反応もよく、楽しく充実したイベントになった。市内全域の児童に対し、科学の面白さを伝えるという目的は達成できたと考える。今後も継続的に開催することで事業の認知度を向上させ、多くの子どもたちに参加してもらえるよう積極的なPRを行っていく。
東部	<東部地区センターとの共催> 下水道ってなんだろう	湧水のまち東久留米をアピールし、水資源の多いこの地域の特徴を学ぶ。ワークショップでは溶ける紙の実験を行い、下水道の役割と大切さを知り、水の循環を調べる。	開催日：令和5年7月23日（日） 会 場：東部地域センター 参加者：17名（子ども9名、保護者8名）	毎年東部図書館で実施している「黒目川リバーウォッチング」にも関連する、東久留米市ならではの事業であったと思う。講師に用意いただいたスライド説明やクイズが大変好評で、地域の誇るべきものに目を向ける良い機会になった。